

勢多だより

SETA DAYORI

No. 105
2016年7月



平成28年度入学宣誓式
新任教員紹介



平成28年度新入生宿泊研修
第41回浜松医科大学との交流会
平成27年度卒業式

平成28年度 新入生歓迎



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE



【メインテーマ】「平成28年度新入生歓迎」

トピックス

- 01 平成28年度 入学宣誓式
- 03 平成28年度 新入生紹介

新任教員紹介

- | | |
|---------------------------|-----------|
| 05 臨床教育講座 | 准教授 辻 喜久 |
| 06 公衆衛生看護学講座 | 教授 伊藤 美樹子 |
| 07 生化学・分子生物学講座（分子病態生化学部門） | 准教授 佐藤 朗 |
| 08 麻酔学講座 | 准教授 高橋 完 |
| 09 地域医療教育研究拠点 | 准教授 梅田 朋子 |

キャンパスライフ

- 10 平成28年度 新入生研修
- 13 第41回 浜松医科大学との交流会
- 15 リーダース研修
- 16 医師・保健師・助産師・看護師国家試験の結果

図書館からのお知らせ

- 17 わたしがすすめるこの本2016

iKODE プログラム紹介

- 21 iKODE プログラムとは？
- 23 ～海外研修を終えて～

JCHO 滋賀病院だより

- 24 JCHO 滋賀病院における都市近郊型地域医療と臨床実習 JCHO 滋賀病院 院長 来見 良誠
- 25 JCHO 滋賀病院 研修責任者からのメッセージ JCHO 滋賀病院 臨床研修部長 中島 滋美

インフォメーション

- 26 平成27年度 卒業式
- 29 平成27年度 学位授与式
- 30 平成27年度 学位論文学長賞等授与式
- 31 名誉教授の称号授与
- 31 第39回 解剖体納骨慰霊法要・納骨式
- 32 研究医コースの紹介

トピックス

Topics

平成28年度 入学宣誓式



学長 塩田 浩平

入学式告辞

本日ここに、ご来賓各位のご臨席を賜り、教職員一同と共に平成28年度滋賀医科大学学部および大学院の入学式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びであります。

滋賀医科大学に入学された医学科100名、看護学科62名の皆さん、おめでとうございます。満開の桜も皆さんの入学をお祝いしているようです。また、新入生の皆さんを今日まで支えてこられたご家族ならびにご関係の皆様にも心からお慶びを申し上げます。

新入生の皆さんは、医師、看護師、あるいは医学や看護学の研究者になろうとする志を持って入学試験の難関を突破し、本学へ入学されました。いま皆さんが感じている喜びと新たな決意を忘れることなく、これからの4年間または6年間、勉学に励んでください。皆さんの大学生活が楽しく有意義なものになることを願っています。

また、大学院博士課程へ進学された35名、修士課程へ進学された8名の皆さん、ご進学おめでとうございます。皆さんが、医学と看護学の分野で様々なテーマの研究に取り組み、独創的な研究成果を挙げて医学と看護学の進歩に寄与されることを期待しています。

滋賀医科大学は、医学系の単科大学ですが、独自の医学教育・看護学教育によって信頼される優れた医療人を育成し、特色ある研究と高度先進医療の実践によって医学・看護学と医療の発展に貢献しています。また、本学は滋賀県で唯一の医学部であり、「地域に支えられ、地域に貢献し、世界に羽ばたく」を校是とし、地域医療の充実や地域医療に従事する医療者の育成にも力を注いでいます。

開学以来これまでの卒業生が4800名を超え、滋賀県は勿論、全国の医療の現場や大学で活躍しています。

学部教育の目的は、医学科では、国際水準の臨床能力と優れた人間性を備えた医師・医学研究者を育成すること、看護学科では、高い専門知識と卓越した技術を備え保健医療分野で活躍できる看護師、助産師、保

健師などを育成することにあります。

医学科のカリキュラムは、基礎学、すなわち人文科学、社会科学、外国語、生命科学入門などの教養科目に始まり、その後、基礎医学と臨床医学の科目を学習します。看護学科では、まず教養科目を学び、続いて基礎看護学、臨床看護学を学習します。両学科とも、最後の1～2年間は、病院現場での臨床実習が中心となります。カリキュラムは医師や看護師になるために必要な専門知識と臨床能力を段階的に習得できるように構成されていますので、各科目を着実に修めて進級していくように心がけてください。

学生時代に習得すべき医学と看護学の知識や身につけるべき技能の量は膨大ですから、医学部では自由な時間はそう多くありませんが、医療人となるためには、若い時に豊かな常識や倫理観、広い視野を培うことも専門知識の習得と同様に重要であります。本学ではクラブやサークルなどの課外活動が盛んであり、また、この滋賀の地は雄大な近江平野と琵琶湖の自然に恵まれ、数々の歴史遺産、仏教や古典にゆかりの深い寺社や名跡がたくさんあります。ぜひ学業の合間の余暇を見つけて、読書に親しみ、友人と共にスポーツを楽しみ、芸術や自然にも触れてください。

皆さんが卒業後に医師や看護師として接する人の多くは患者さんであり、心身に様々な問題や苦しみを抱えておられます。後天的に病を得た人も多いでしょうし、生まれつきの障害を持った方もおられます。そうした人々の苦しみを軽減し病気から解放するのが医療や看護の役割ですが、患者さんが受ける病気の苦しみを我々がすべて体験することはできません。そこで重要になるのが患者さんの立場を思いやる「想像力」ですが、実際には他人の痛みや苦しみを正しく理解することは容易ではありません。私は最近、伊藤亜沙さんという方が書いた「目の見えない人は世界をどう見ているか」という本を読みました。健常者から視力が欠落した状態が視覚障害者であると我々は単純に考えがちですが、伊藤さんは何人かの視覚障害をもつ方に接して、大変重要なことを発見しています。すなわち、

視力のない人は、視覚をもった人間とは全く異なる感覚で周囲の世界を感じ取り認識している、ということ、言い換えれば、視力がないことは健常者から「見る」という能力や感覚が欠如した状態では決してない、ということです。例えば、我々は、目の前の景色を網膜というスクリーンに映った平面的な画像として感じ取りますが、視覚障害の方は、道路や建造物、山や谷などを立体的な俯瞰図として頭の中に描いて周囲の世界を認識しているとのことです。著者は、視覚障害者はある意味で健常者よりも豊かな身体感覚（身体性）を備えている、と述べています。この書が我々に教えているのは、健常者といわゆる「障害者」は、完全なものとは欠損をもったものという関係ではなく、互いに異なる身体機能を持った「個性」の表れである、ということです。障害があるとすれば、それは彼らの肉体にではなく、我々が生活するこの社会の中にある、ということを考えさせられました。最近、パラリンピックがオリンピックと並んで注目されますが、近年のパラリンピックは単なる障害者の競技としてではなく、装具などによって新たな身体性と運動能力を獲得した人間が行う美しい競技として、我々を楽しませてくれます。

このように、新しい研究や多様なアプローチによる成果、新たな物の見方が、我々のイメージーションを豊かにし、新しい気づきをもたらしてくれます。学生時代には、医学や看護学の学習だけでなく、幅広く勉強をして、自らの感受性や人間性を磨いてください。若い時に身につけたそのような教養が、将来医療人となったときに必ず役に立つはずです。

さて、本日、大学院では、博士課程と修士課程へ併せて43名の皆さんを迎えました。この中には、4名の外国人の方もおられます。大学院の数年間、自らの興味とアイデアをもとに、自由に発想し、未知の課題の解明に集中できる貴重な時間であります。皆さんには、ぜひ困難と思われるテーマに果敢に挑戦していただきたいと思います。研究は順調に進まないこともしばしばありますが、そうした困難を自らの努力と工夫で克服した時に、研究者としての大きな喜びと達成感を感じることができるのです。

研究は、研究対象と研究する人間との格闘でもありますが、同時に、対象を深く研究することによって我々は新しい世界を発見し、自らも成長する喜びを感じることができます。ゲーテは「形態学論考」(Zur Naturwissenschaft ueberhaupt, besonders zur Morphologie, 1817)の中で次のように述べています。

自然を追究して行くと、やがて人間は自然の偉大さに限りない敬意を払うようになる。そしてそのとき、

研究者は無限に広がる二つのものを認めるようになる。その一つは、対象である自然の側における存在と生成の多様性であり、また、その存在と生成が織りなす多様に広がる関係である。他の一つは、自然を観察する人間自身の側の無限に広がる認識である。それは、研究者自身のもつ感受性と判断力に、新しい受け止め方や新しい反応の仕方を絶えず習得させながら、研究者を限りなく完成していく可能性である。このような、学問をする上での高度な喜びこそが、人生のしあわせを決定するものである。

皆さんがこれから行う研究は、その成果が科学や社会の進歩に貢献するものであると同時に、皆さん自身の人生に大きな意味を持つものとなります。ぜひとも個性的な研究に取り組み、知を発見し知を創造する喜びを味わってください。

本日入学された皆さんの学生生活、大学院生活が楽しく充実したものになることを心から祈念し、お祝いの言葉といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

平成28年4月5日

平成28年度 医学部 入学宣誓式

平成28年度入学宣誓式を4月5日(火)に本学体育館で挙行し、医学科学生100名、看護学科学生62名の新生を迎えました。式典では各学科入学生代表による宣誓が行われ、新たな一歩が踏み出されました。

医 学 科 新 入 生



医学科新生 100名

看 護 学 科 新 入 生



看護学科新生 62名

平成28年度 大学院医学系研究科 入学宣誓式

平成28年度入学宣誓式を4月5日(火)に本学体育館で挙行之、大学院生(博士課程)35名、大学院生(修士課程)8名の新入生を迎えました。式典では各課程の入学生代表による宣誓が行われ、新たな一歩が踏み出されました。

大 学 院 医 学 系 研 究 科



新任教員紹介

Newly-
appointed
teacher
introduction

臨床教育講座



准教授 辻 喜久

このたび、2016年3月16日付けで、臨床教育講座の准教授を拝命いたしました。私は高知医科大学医学部を2001年に卒業し、京都大学医学部附属病院内科を経て、倉敷中央病院にて内科・消化器内科の研修を受け、2006年より京都大学大学院医学研究科に入学いたしました。倉敷中央病院時代に急性膵炎の画像研究を行っていたこともあり、千葉勉先生、渡邊智弘先生のご指導のもと、自然免疫と急性膵炎の関係について基礎研究を行いました。

大学院時代には基礎研究と並行して臨床及び教育にも取り組みました。臨床では急性膵炎の多施設共同研究を行い、教育では学生・研修医を対象にCase Conferenceを行いました。このCase Conferenceは総合的内科的なもので、何人かの参加学生は症例検討から研究・論文発表に発展し、充実した毎日でした。

2010年末より米国Mayo Clinicに留学しました。色々な御縁をいただき、1年目は消化器内科のTraineeとしてSuresh Chari先生、Vege Santhi先生にご指導を仰ぎ、臨床研究を行いながらResident教育の現場を見学いたしました。また、2年目は放射線科のFellowとして膵機能画像についてJG Fletcher先生、Takahashi Naoki先生にご指導をいただきました。また、大学での部活動以来のサッカーでアキレス腱を断裂し、米国で手術を受けるという得難い経験をしました。

さて、留学中に忘れられない経験がありました。東北地方太平洋沖地震です。米国ABCでの仙台の映像

は忘れられません。この時、不思議な御縁から米国医療チームに混じって日本へ派遣されました。電気が不通でモニターや医療機器が役に立たない中、医療面接や身体所見だけで心不全を診断し、カテコラミンの量を調整しながら地割れの残る真っ暗な夜道を3時間かけて内陸の病院に搬送しました。この時、医療チームのスタッフと「やっぱり診療の基礎をしっかりと学ぶ・教育することは大切だね。」と話したことを思い出します。

2013年に留学から帰国し、京都大学にて臨床、研究、教育に取り組みました。2014年にはブータン王国にて内視鏡指導を行いました。レジデントの情熱は世界共通だなあと痛感いたしました。

2015年になり、倉敷中央病院に異動しましたが、同年、私の研修医時代の最初の指導医であられた伊藤俊之先生（臨床教育講座）が、私の出身地である滋賀県の滋賀医大に異動されたと聞き、大変驚きました。

この度、ここでも御縁をいただき、出身地である滋賀で医学教育に携わることになり、非常に嬉しく思っています。昨今の医学教育を取り巻く環境の変化は著しいですが、本当に大事なことは変わっていないのでは、とも思っています。今まで私が色々な御縁でいただいた医学的な経験や教育、情熱を、次の世代に少しでも伝えていければと存じます。私自身はまだまだ未熟で、もっと成長しなければいけないと反省の毎日ですが、皆様におかれましては今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

経
歴

2001年 3月 高知医科大学 医学部 卒業
 2001年 4月 京都大学 医学部附属病院 内科 レジデント
 2002年 5月 倉敷中央病院 内科 レジデント
 2003年 4月 倉敷中央病院 消化器内科 シニアレジデント
 2006年 4月 京都大学大学院 医学研究科 博士課程 入学
 2010年 3月 京都大学大学院 医学研究科 博士課程 修了
 2010年 11月 GI Trainee, Division of Gastroenterology, Mayo Clinic, Rochester, USA
 2011年 12月 Clinical Research Fellow, Department of Radiology, Mayo Clinic, Rochester, USA
 2013年 4月 京都大学 医学部附属病院 消化器内科 医員

2014年 4月 京都大学 医学部附属病院 消化器内科 助教、
消化器内科 外来副医長
 2014年 7-8月
Instructor in Gastroenterology
(Kingdom of Bhutan)
 2015年 4月 倉敷中央病院 消化器内科 医長
 2016年 3月 滋賀医科大学 臨床教育講座 准教授

公衆衛生看護学講座



教授 伊藤 美樹子

2016年4月1日付けで公衆衛生看護学講座の教授を拝命致しました。私が大学での看護教育を受けた1980年台後半から1990年前半ごろは、看護系大学の数はまだ両手で足りるほどでした。同期のほとんどが就職する中、大学院へ進学。修士・博士とも学業に専念する形で大学院生活を送りました。大学院は30人以上も在籍する大規模な研究室で、同期は6人。指導教員の指導を仰ぐのは競争、机は共用でした。こんな環境だからか、私の大学院時代の恩師、山崎喜比古先生は、常々、院生の力を育むものは、3つだとおっしゃっていました。すなわち「机と大学院生同士の切磋琢磨・互助、そしてついでのように指導教員」であると。大学や大学院の教育研究活動は学生や大学院生徒の活躍あってこそ活発になります。その点、滋賀医大は居住スペースが十分あり、恵まれています。ただし、社会人院生が多いので、どうやって院生同士の活動を展開するかと考えているところです。

私自身が学部時代に学としての看護学の面白さを教えてくれたのは、千葉大学看護実践研究指導センターの医系教官内海澁先生でした。参加希望者は誰でもという英語の原著論文の抄読会には熱心に通いました。内海先生の看護学への期待や意義の捉え方は大いに刺激になりました。東京大学の保健社会学教室は、保健学、教育学、薬学、社会学など出身学部が多様な人が集まる研究室でした。同期や先輩たちの発想や問題関心と相対しながら、学部の時には自覚していなかった私自身の看護学的なものの見方や考え方を大いに認

識、自覚するようになりました。教員として勤めた大阪大学で出会った講座主任の早川和生先生は、いつも学生に夢を語り、挑戦する後押しをされていました。そして実際に行動する学生や院生、卒業生のバイタリティや、成長を間近に見てきました。

いよいよ教授として、公衆衛生看護学講座を主宰する立場となりました。私が教育研究者として育てられた環境を私も大切にしていきたいと考えています。現在、当講座は、公衆衛生看護学と在宅看護学の2つの領域をまたがる分野を担当しています。これに加えて、将来、在宅看護を担う人材育成を目指した訪問看護師コースも担当しています。滋賀県は私の地元です。公衆衛生や在宅医療・療養支援の領域で優れた実績のある方々がたくさんおられることを誇りに思います。そうした方々の経験やマインドを本学の教育活動に取り入れていけたらと思っています。同時に地域のヘルスニーズやイノベーションに寄与できる研究活動にも取り組むたいと考えておりますので、お声かけください。

とはいえ新任ゆえ、何卒ご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

経歴

- 1992年 3月 千葉大学 看護学部 卒業
- 1993年 7月 松戸市保健衛生部 健康管理課臨時職員(保健師)
- 1994年 3月 東京大学大学院 医学系研究科
保健学専攻修士課程修了(保健社会学教室)
- 1998年 6月 東京大学大学院 医学系研究科
保健学専攻博士課程修了 博士(保健学)
(保健社会学教室)
- 1997年 4月 大阪大学 医学部 助手(保健学科地域看護学講座)
- 1998年 4月 大阪大学 医学部 講師(保健学科地域看護学講座)
- 2003年 10月 大阪大学大学院 医学系研究科 助教授
(保健学専攻総合ヘルスプロモーション科学講座)

- 2016年 4月 滋賀医科大学 医学部看護学科
公衆衛生看護学講座 教授

生化学・分子生物学講座(分子病態生化学部門)

准教授 佐藤 朗



2016年4月1日付で生化学・分子生物学講座 分子病態生化学部門の准教授を拝命いたしました。私は、東京工業大学生命理工学部を卒業後、同大学の修士課程に進学し、基本転写のメカニズムを学んでいました。しかし、顕微鏡下で生物のかたちづくりをダイナミックに観察できる発生学に惹かれ、同校を中退し、東京大学大学院総合文化研究科に進学しました。そして、当時はまだ未知の領域であった臓器形成の分野で、アフリカツメガエルというユニークな実験動物の受精卵を用いて腎臓形成機構の解明に取り組んでいた浅島誠先生(現・東京理科大学教授)と西中村隆一先生(現・熊本大学教授)のご指導の下、腎臓形成に関わる遺伝子の研究を行い、博士号を取得しました。この過程の中で、Wnt(ウィント)と呼ばれる細胞外シグナル伝達因子を研究する機会に恵まれました。Wntをツメガエル受精卵で異所的に活性化させると、もう一つの頭部とそれに伴う体軸を持つ双頭のオタマジャクシが誕生します。つまり、Wntの活性化によって、一つの受精卵の中にもう一つ個体発生が促されます。当時の私にとって、Wntによって活性化される細胞内シグナル伝達の仕組みは謎が多く、非常に魅力的な研究分野でした。そのため、米国で精力的にWntシグナル研究を行っているRaymond Habas博士の研究室に留学をして、脊椎動物の初期発生過程におけるWntシグナル研究に没頭しました。帰国後も引き続きこの研究分野に身を置きたいと考えていた私は、日本のWnt研究の第一人者である菊池章先生(現・大阪大

学教授)の研究室に加わりました。菊池先生の研究室では、これまでの発生学中心であった研究から、より医学に重点をおいてWntタンパクの生化学的解析やがんや炎症性疾患におけるWntシグナルの研究を行い、現在に至っています。

以上のような経緯を経て、私は基礎研究を背景として医学科の教員となりました。今までは、主に学生実習の指導、大学院生の研究指導、自身の研究活動を中心に活動してきました。しかし、滋賀医科大学では、前述の教育活動に加えて、学生のみなさんに定期的に授業を行えることを大変嬉しく感じると共に、今から身が引き締まる思いです。私が、本格的に研究活動に取り組む上で、大学院生時代に出会った浅島先生と西中村先生からは『新規性の高い研究を行うことの重要性と楽しさ』を、そして米国留学時代のHabas先生からは、『生命の誕生を顕微鏡下で観察できる発生学研究の面白さ』を、さらに助教時代の菊池先生からは、『生化学を基盤として生命現象を考えることの重要性』や『大学教員としての振舞いや心構え』を教えてくださいました。このように、私は非常に恩師に恵まれた環境で、これまで教育を受けてきました。未熟な私ですが、今まで恩師から学んだ多くのスキルや考え方を、医学科の教育に還元できるよう精進し努力していきたいと思えます。また、扇田久和先生の下、これまで以上に研究活動にも日々邁進し、少しでも社会に貢献できる研究を行って参りたいと思えますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

経歴

1996年 3月 東京工業大学 生命理工学部 卒業
 1997年 9月 東京工業大学大学院 生命理工学研究科
 バイオテクノロジー専攻修士課程 中退
 2000年 3月 東京大学大学院 総合文化研究科
 広域科学専攻修士課程修了
 2003年 3月 東京大学大学院 総合文化研究科
 広域科学専攻博士課程修了
 2002年 4月 日本学術振興会特別研究員(DC 2)
 2003年 4月 日本学術振興会特別研究員(PD)
 2004年 4月 東京大学医科学研究所
 幹細胞シグナル分子制御部門 教務補佐員

2004年 7月 米国ニュージャージー州立医科歯科大学
 ロバートウッドジョンソン医学校 博士研究員
 2006年 8月 米国ニュージャージー州立医科歯科大学
 ロバートウッドジョンソン医学校 博士研究員
 兼 ニュージャージー州癌研究委員会 研究員
 2007年 8月 広島大学大学院 医歯薬学研究科 助教
 2009年 12月 大阪大学大学院 医学系研究科 助教
 2016年 4月 滋賀医科大学 生化学・分子生物学講座
 分子病態生化学部門 准教授

麻酔学講座



准教授 高橋 完

2016年4月1日付けで麻酔学講座准教授を拝命致しました。3月末までは手術麻酔を兼務しながら本学救急集中治療部に所属しておりましたので、各診療科や附属病院のスタッフの皆様には既にお世話になっておりますが、改めて自己紹介をさせていただきます。

私は1992年に本学を卒業後、本学麻酔科で研修を開始しました。手術を受ける患者さんの気道・呼吸から循環、疼痛管理まで幅広くマネジメントする麻酔学は学生時代に学んだ解剖・生理・薬理学を臨床の現場で実践できるダイナミックな学問そして医療であり、非常に魅力的でした。時には当時の手術部のラウンジに寝泊まりしながら、日々の研修に没頭しました。大学院では犬伏先生、森川先生にご指導をいただき、核磁気共鳴を用いて麻酔薬による臓器エネルギー代謝の保護効果について研究しました。麻酔学は言わば侵襲防御学であり、麻酔薬によって手術中のみならず術後そして重症管理が必要な患者さんの重要臓器を保護できないかというテーマを持ち、現在に至っています。大学院修了後は湖北の市立長浜病院麻酔科に赴任し、北川部長（現麻酔学講座教授）のご指導のもと、心臓麻酔をはじめ臨床麻酔の研鑽に励みました。その後、サブスペシャリティとして麻酔における呼吸・循環の知識や技術が生かせる集中治療に興味を持ち、本学の集中治療部勤務を経て米国の大学病院において外科系集中治療を中心に研修する機会を得ました。帰国後は麻酔と集中治療を軸に各施設で手術室とICUを行ったり来たりするようなスタイルで勤務してきました。

私が麻酔科の研修を開始してからこの四半世紀の間に他の領域を凌駕する勢いで麻酔学は発展を遂げました。一部の麻薬を除いて麻酔に使用する薬剤は調節性のよいものに一新され、気道確保のデバイスも進化し、麻酔の安全性は格段に向上しました。この間、外科手術も年々低侵襲化してきました。これら麻酔学および外科学の発展により、手術治療の対象となる患者数は激増の一途をたどってきました。しかしながら、それに対応すべき麻酔科医の増加は到底追いつかず、国内の至る所で慢性的な麻酔科医不足という問題が生じています。この滋賀県においても麻酔科医不足は深刻です。本学の麻酔科は膨大な臨床麻酔業務の傍ら教育機関として麻酔科医を育成する重大な責務を担っています。また、今年度から本学でも将来手術室や救急集中治療の分野で活躍が期待される看護師を教育する特定行為研修プログラムが開始されます。私は大学に勤務する麻酔科医の一人として、これらの教育にも関わらせていただき、麻酔や集中治療の魅力を伝えながら麻酔科医不足解消、そして母校でもある本学の発展に少しでもお役に立てればと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

経歴

- 1992年 3月 滋賀医科大学 医学部卒業
- 1992年 4月 滋賀医科大学 麻酔科研修医
- 1993年 5月 市立吹田市民病院 麻酔科
- 1998年 3月 滋賀医科大学大学院修了
- 1998年 4月 市立長浜病院 麻酔科
- 2002年 1月 滋賀医科大学 集中治療部 助手
- 2003年 12月 アルバート・アインシュタイン医科大学神経科学リサーチフェロー
- 2006年 5月 フロリダ大学 麻酔科外科系集中治療部 フェロー
- 2009年 4月 市立塚本病院 麻酔科 部長
- 2013年 8月 滋賀医科大学 救急集中治療部 講師

2016年 4月 滋賀医科大学 麻酔学講座 准教授

地域医療教育研究拠点



准教授 梅田 朋子

2016年4月1日付けで地域医療教育研究拠点の准教授を拝命いたしました。活動拠点であるJCHO滋賀病院に在籍出向し、地域医療と大学の先進医療を結ぶ重要な働きを担うものとして、身を引き締めて着任いたしました。

私は滋賀医科大学の8期生で、学生時代から滋賀県と滋賀医科大学に育てていただきました。創立当初ということで、硬式庭球部を中心に室内合奏団（現オーケストラ部）やスキー部にも一部参加し、心身ともに鍛えていただきました。その後は6人の同級生と共に旧第一外科（小玉正智教授）に入局し、消化器・乳腺・内分泌・一般外科を中心に研修させていただきました。また、滋賀医科大学第一病理学教室（服部隆則教授）にて乳癌の浸潤転移に関する遺伝子研究を行い、博士号をいただきました。線溶系因子と乳癌の浸潤転移に関する研究は現在もライフワークになっておりますが、江口豊教授のご指導のもと、研究の難しさや楽しさを教えていただきました。その後の英国留学は滋賀医科大学の医療・研究レベルを再確認させていただく機会にもなりました。

出産復帰後は地域医療を学ぶとともに、滋賀医科大学で研修をつみ、乳癌指導医の経験もさせていただきました。当時、出産復帰する外科医は少なく、院内保育所などもなく、このように子育てをしながら乳腺外科医としてのキャリアを積ませていただけたのも外科学講座（谷徹教授・谷眞至教授）のお陰であると感謝いたしております。

また、医師臨床教育センターでは西田保裕センター長に診療科を越えての若い医師の育成術をお教えいただきました。現在も乳腺の研究を大学院生や若い先生と続けておりますが、より良い医療人を育てるためには、専門医をめざすとともに日々の臨床から新しい知見を見いだす力を養う必要があると考えます。なかでも女性医師は日々の仕事や家庭に追われ、研究に打ち込む余裕が不足していますが、いろいろな制度を利用しながら、キャリアアップしていくことに、私が役に立てればと考えております。

外科学講座では、文部科学省が主導するがんプロフェッショナル養成プランの特任講師として6年間勤めさせていただきました。他大学と共同して医療人を育てる中で、滋賀県唯一の医科大学として地域医療における重要性は常々認識しておりました。JCHO滋賀病院では来見良誠院長と外科スタッフのご協力のもと、乳腺センターとして、検診業務を充実し、早期病変を正確に診断し、患者さんに合わせた確実な治療を、滋賀医科大学と連携して行えるシステムを作り上げ、エビデンスにもとづいた世界標準の治療を地域で広めるとともに、教育研究拠点として、乳腺医療人を含む全ての医療人を育てながら、医療レベルの向上に努めていきたいと思っております。

今まで、多くの人に支えられ、仕事を続けてまいりました。この重責を遂行すべく、奮起する所存ですので、これからもどうぞよろしく願いいたします。

経歴

1988年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院（臨床見学生）第一外科
 1988年 6月 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）第一外科
 1989年 4月 朝日大学歯学部附属村上記念病院 外科
 1990年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）第一外科
 1990年 7月 国立奈良病院 外科レジデント
 1993年 4月 滋賀医科大学大学院医学系研究科 博士課程 入学
 1997年 3月 滋賀医科大学大学院医学系研究科 博士課程 修了
 1997年 4月 琵琶湖大橋病院 外科
 1997年 10月 英国 University of Oxford 病理・細菌学教室
 Post doctoral fellow
 1999年 10月 滋賀医科大学医学部附属病院医員 第一外科

2000年 2月 名古屋徳洲会総合病院 外科
 2000年 4月 滋賀医科大学医学部附属病院医員 第一外科
 2001年 11月 南草津病院 外科
 2003年 4月 滋賀医科大学 外科学講座 非常勤講師
 2008年 7月 外科学講座（乳腺・一般外科）特任講師
 2015年 3月 医師臨床教育センター 副センター長 特任講師
 2016年 4月 滋賀医科大学 地域医療研究拠点 准教授

キャンパス
ライフ
Campus
life

平成28年度 新入生宿泊研修

4月7・8日の両日、休暇村近江八幡において、平成28年度新入生宿泊研修を実施しました。研修には、医学科、看護学科の新入生および引率教職員の総勢約180名が参加しました。

初日は、飯盒炊爨から始まり、「滋賀と滋賀医大の魅力」「里親学生支援について」「医療人としてのマナー」と題した講演会と、学科・クラス別懇談会が行われました。2日目は、「医療と人権」「命の大切さを伝える」「薬害と煙害等について」と題した講演会が行われました。その後、大学に戻り、今年度初の試みとして、向所准教授による「滋賀医科大学入学に際しての心構え」と題したワークショップと病院見学が実施されました。病院見学ではスキルスラボ、病院長室、ヘリポート、救急集中治療部を巡り、松末病院長をはじめとした病院職員による説明が行われました。

研修を通して新入生は仲間との親睦を深め、滋賀医科大学の学生として自覚を持つことができました。

● 新入生宿泊研修に参加して

医学科第1学年 田中 亜利沙

入学して友達をつくる間もなくの新入生宿泊研修で、少し緊張しながらの参加となりました。初日の飯盒炊爨は、残念ながら天気めぐまれずに、火加減で四苦八苦しなごうでした。しかし、その分工夫してみんなで取り組むことができ、コミュニケーションをとることができました。

たくさんの講義を聞く中で最も印象に残ったのは、向所先生のお話とワークショップです。なぜ医師になりたいのか、自分の中でその思いを持ってはいても、いざ他の人に分かってもらうために伝えるとなると難しく、コミュニケーション方法の大切さを学びました。聞く側としても、どのように質問しようかと考えなければならなかったごので、ペアの人の話に注意深く耳を傾けることができました。医療人に必要なことというワークショップでは相手と意思疎通をはかるには、あなたや君ではなくその人の名前でご呼ぶ方が良いなど具体的なお話もあり、非常に勉強になりました。また進級や単位への不安を抱えている私たちを激励してくだ

さいました。

はじめは友達ができるごだろうかとご不安もありましたが、食事やワークショップ、夜に部屋で集まったのおしゃべりでご少しずつですが打ち解けることもご嬉しかったです。たくさんの講義でご学んだこと、感じたことを忘れずにこの大学でご学んでいきたいと思ひました。



● 新入生宿泊研修に参加して



滋賀医科大学に入
学して3日目にして
始まった新入生宿泊
研修。まだ言葉も交

わしたことの無い人と同じ飯盒炊爨の班だったり、寝室だったりと少しの不安とともに宿泊先へと向かうバスに乗り込みました。飯盒炊爨の当日は大雨で、どの班も雨に濡れるのを嫌がりながら、渋々作業に取り掛かったが、薪に火をつけるのに悪戦苦闘したり、ご飯の水加減などをあーだこーだと言ったりしているうちに雨など気にもならなくなっていました。また、班全員で力を合わせて作ったカレーはとてもおいしかったです。

午後からは講義の連続でそれを終えると、クラス懇談会がありました。懇談会では、自己紹介がありクラス全員の個性が垣間見え、とても楽しかったです。そして、夕飯のあとは待ちに待ったフリータイム！ほかの人の部屋に出向いて、皆で夜な夜な話明かしました。前日の夜が遅かったせいか眠い目をこすりながら朝食

医学科第1学年 北尾 遼平

を食べ、二日目の講義ラッシュを乗り切ると、合宿所の休暇村ともお別れで、陶芸の里へ昼ご飯を食べにバスに乗り込みました。昨年までは、陶芸の里で陶芸体験をされていたようですが、今年からは、ワークショップと病院見学という二大イベントが増えたために陶芸体験ができず少し残念でした。

帰りのバスでは、偶然にも山田副学長の後ろの席に座らせて頂き、先生の学生の頃の話や昔の滋賀医科大学の話をして頂きました。そして、学校に到着して始まったワークショップでは、「いい医師になるために学生時代にしておくべきこと」という題で、皆で議論を交えました。そして、最後の病院見学ではヘリポートに行かせていただいたり、病院長からお言葉をいただいた上に握手までしていただいたりと、普通では経験できないことをたくさんさせていただきました。

この宿泊研修を通じて、目指すべき医療人の像を再確認できたのと同時に、そうなるためにどう大学生活を送ればよいかを学ぶことができました。

看護学科第1学年 安藤 秀容

私は、正直この新入生宿泊研修は期待の反面、不安もありました。

なぜなら私は人見知りの傾向があり、年齢も周りより上のため、初対面の人と上手くすごせるか心配だったからです。しかしその不安はバスに乗り、隣の方がフレンドリーに接して下さったことにより、すぐになくなりました。

目的地に到着してすぐに飯盒炊爨が始まりました。なぜ飯盒炊爨を行うのか少し疑問でしたが大自然の中皆で共に食事を作り食べるのは高校以来だったので非常に懐かしく、生憎の悪天候でしたが大自然という環境が緊張感をほぐし、良い人間関係を築けるのだなあと感じました。

非常に楽しく有意義な食事をとった後は、滋賀の素晴らしさ、医療人として持たねばならない心構え、人命の尊さ、薬物等の中毒の恐ろしさなど、どれも滋賀医科大学の学生として必要不可欠な知識をえることができた素晴らしい講義を謹聴させて頂きました。この

講義で学んだこの初心を忘れることなく勉学に励んでいきたいと改めて感じました。

私はこの宿泊研修の目的は会って間もない間に共同作業を通じて過ごすことによって、互いに親密な関係を築くものだと考えていました。しかしそれだけでなくチームワークの大切さ、医療人になるため私達が持つべき責任感を再確認することもまた大きな目的であると感じました。非常に有意義な体験であったと思います。

この宿泊研修で学んだことを生かし、大学生活を送っていきたく思います。このような素晴らしい機会を作ってくださった大学関係者の方々に感謝申し上げます。



● 新入生宿泊研修に参加して



受験も終わり、滋賀医科大学の学生として通うことが楽しみで、これからの大学生活に

胸を躍らせていました。そして、入学して早々に新入生宿泊研修が行われました。

バスに乗り込むと隣になった人と気兼ねなく接することができ、話が弾み移動時間も楽しめました。飯盒炊爨では、医学科と看護学科が一緒にカレーライスを作りました。活動の中で医学科と看護学科が仲良くなれる良い機会でした。あいにくの雨でしたが、班のメンバーと協力して取り組みました。初めは緊張しましたが、お互い助け合いながら、野外ならではの絶品カレーを作ることが出来ました。

そのあとは、様々な講師の方たちによる講義を受けました。そこでは、滋賀の魅力についての話がありました。滋賀県出身ですがまだまだ知らない魅力に溢れていると感じました。医療人のマナーなどこれからの

桜満開の4月、緊張と不安と喜びで迎えた入学式、慌ただしく過ぎる時間の中で新入生宿泊研修を迎えました。私は社会人編入生であり新一年生よりも年齢を重ねていたため、周りの皆と親しい交流関係が築けるかとても不安であり、あいにくの天気も重なり不安な気持ちで研修の日を迎えバスに乗り込んだのを覚えています。しかし、現地へ到着し、飯盒炊爨の班分け、準備を始めた頃には新入生といくつか言葉を交わし、緊張がほぐれていくのを感じました。

班員の中での役割分担を決め、皆で協力して作ったカレーは、雨で冷え切った身体を癒し暖め、学生同士の絆を深めてくれたように思います。

その後行われた懇談会は、各学科に分かれて自己紹介を行い、互いの個性を知る良い機会となりました。これから共に学び大学生活を送る仲間が、個性豊かで笑顔の多い人たちだと知り安堵したように思います。

イベントの合間に挟まれる講義では、滋賀の魅力や人権学習、医療人としての心得など熱意のある講義を

看護学科第1学年 池野 茜

必要とされる考え方やの知識を学び、医療者になりたい理由など改めて深く考えさせられました。懇談会では看護学科だけが集まり、自己紹介から始まりメンバーの色々な一面が見られて、笑いの起こる愉快的時間でした。質問コーナーが設けられていたり、仲間とも先生とも距離を縮められました。フリータイムではゆっくり班のメンバーと話せるので、それでさらに仲良くなったと思います。時間が経つほどにたくさんの友達ができ、とても良い思い出になりました。

2日目は薬害や人権などの講義や遺族の方からの大切な話を聞きました。どの話も自分達には必ずしも無縁とは言えない事柄なので、とても貴重な時間でした。大学に戻るとワークショップや病院見学があり、普段は見られないところを見せていただけました。

この研修で学んだことを十分に活かせるように、医療人になるという自覚を持って4年間を過ごしたいと思います。初めは不安で一杯でしたが、思い切り楽しめる素晴らしい行事でした。

看護学科第3年次編入 松本 由香里

聴く事ができ、滋賀医科大学に入学した意義を再度考えさせられる大変良い機会となりました。就寝時には、他部屋の新入生と多く言葉を交わし笑顔も多く見られていたように思います。

翌日は、天候も回復しすがすがしい天気の中バスに乗り込み、自分がこれから過ごす大学生活を思いました。看護師として社会で働く日々の中で、移りゆく花々や草木、琵琶湖の美しさなど四季を感じるという当たり前の事を、今回の研修は思い出させてくれました。

新入生同士を知る為の良い時間であったとともに、未熟な自分自身を見つめ直すよい機会となりました。今回の研修は、大学生活での目標が明確化し、充実した大学生活の第一歩となった研修でした。



第41回 浜松医科大学との交流会

去る5月13日(金)・14(土)の2日間、浜松医科大学において第41回浜松医科大学との交流会が開催されました。

今年は、塩田学長、山田副学長、引率の教職員及び学生約370名が浜松医科大学に赴きました。両日とも透き通るような快晴に恵まれ、グラウンド、体育館、武道館などで各クラブが熱戦を繰り広げました。グラウンドでの準硬式野球の対抗戦においては、初めに本学の山田副学長による始球式が執り行われました。

対戦成績は8勝3敗5引き分けで、本学の総合優勝となり、優勝杯を勝ち取ることができました。また、これにより、通算成績は本学の21勝14敗6引き分けとなりました。

5月24日(火)には、体育会長と交流会代表学生から、塩田学長・山田副学長への優勝報告が行われました。塩田学長からは学生に対して、今後のさらなる活躍について、激励の言葉が贈られました。

平成28年度 第41回 滋賀医科大学ー浜松医科大学交流会 競技結果

平成28年 5月13日(金)・14日(土)

種 目		滋 賀	浜 松
硬式テニス	男		1 - 8 ○
	女	△	中断 △
準硬式野球		△	3 - 3 △
バスケットボール	男		32 - 46 ○
	女	○	73 - 37
バレーボール	男	○	2 - 1
	女	○	2 - 0
バドミントン	男	○	5 - 0
	女	○	3 - 2
総 合 結 果			
		滋賀医科大学	8対3 浜松医科大学 5引き分け

※ 通算(滋賀医科大学) 21勝 14敗 6引き分け



● 浜松医科大学との交流会に参加して

委員長 渡邊 龍人

我々の交流戦が実りあるものになると予感させてくれるような青空が広がる5月13日、本学の一行は約200km離れた浜松の地へと出発しました。出発前の壮行会で我々の士気は大いに高まり、浜松へ向かうバスの中でも興奮が冷めることはありませんでした。バスから降りると浜松医科大学の皆さんが我々を迎えてくれました。

四回目の浜医戦ともなると懐かしい顔もたくさんあり、久しぶりの再会をしばし楽しみました。その後、開会式が挙行され、二人の学長から心に沁みる素晴らしいお言葉をいただき、私の浜医戦に対するモチベーションは更に高まりました。

開会式は、浜松医科大学の司会のテンポ良い進行により、和やかに終わりを告げ、遂に浜医戦が始まりました。私が所属しているテニス部では1日目にイレギュラーメンバーによる試合が行われました。

全員が、輝く青春のひと時を色鮮やかな緑のコート上で過ごし、時折吹く風が心地よかったです。結果は

浜松医科大学の勝利となり、悔しくはありましたが相手の勝利を祝福しました。

試合の後は互いの健闘を称えながら、盃を交わしました。普段あまり酒を嗜まない私も、この日ばかりは浜松医科大学の皆と酒を楽しみましたが、少しばかり楽しみすぎてしまいました。2日目、その反動でぐったりしていたところ、気づかぬうちに本学が総合優勝を遂げていました。今年も優勝杯を本学に持ち帰ることができて、本当に良かったと思います。

最後になりましたが、浜医戦の開催にあたり尽力してくださった方々に深く感謝申し上げます。



バスケットボール部 副主将 医学科第4学年 笥 直之

今年で41回目となる交流戦は浜松医科大学が主催ということで、現地で素晴らしいおもてなしをして頂きました。浜松医科大学の方々にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

浜松医科大学に行くのは久しぶりということもあり、非常に楽しみにしていました。現地に到着すると各校の選手が混ざって皆楽しそうに話しており、非常に喜ばしく感じました。浜松医科大学の仲間と話していると普段経験することができない新鮮さがあり、毎回とてもいい刺激になります。また、今回は今までとは違い学年が上がりチームをまとめる立場になったことで同学年同士お互いに今までにはなかった視点で話ができたと良かったです。

交流戦は両校が普段の練習の成果を出すいい機会であり、今年もチームで緊張感を持って臨めたと思います。また、この試合の中で大きな成長を遂げた選手もおりととても嬉しく感じました。交流戦全体としては21勝14負6引き分けで二日間大きな事故なく終えること

ができました。今年の交流戦も、二校がお互いに相手が持っていて自分たちが持っていないものを取り込み、切磋琢磨し合えるいい機会となりました。この過程で育まれた良い関係性は私たちが将来医療人になってからもきっと役に立つことでしょう。

この交流戦で出た課題を克服し、夏の西医体に繋げることができるようにチーム全体で一丸となって努力していきたいと思います。また、来年の交流会で今度は私たちが素晴らしいおもてなしができるように頑張りたいと思います。



リーダーズ研修

本学では課外活動を有意義に発展させ、リーダーとしての自覚と認識を高めると共に、課外活動団体の相互理解を深めることを目的として、毎年、リーダーズ研修を開催しています。

平成27年度は去る3月3日(木)、各課外活動団体の代表者(キャプテン)33名の参加の下、クリエイティブモチベーションセンターにおいて実施されました。

当日は、堀池副学長の開講挨拶にはじまり、救急集中治療部の浜本講師による「救急蘇生等講習」では、実際にAEDを用いた講習が行われました。

その後の班別討議では、学生が4班に分かれ、各自が事前に提案したテーマについて、管弦楽団顧問の生化学・分子生物学講座 小島秀人教授をはじめとしたアドバイザーの先生にもお話を伺いつつ、活発な意見交換が行われました。

引き続き実施された臨床検査医学講座の茶野准教授による講演では、双方向的な内容の講演を通して、課外活動団体の代表として、また医療人としての自覚と責任を高めることが出来ました。

会場では、日頃話をする機会の少ない体育会と文化会の代表が積極的に議論を交わす姿が見られるなど、非常に充実した半日間となりました。

● リーダーズ研修に参加して

文化会長 医学科第4学年 竹中 大輔

今年も体育会及び文化会の各部活の代表者を対象に、リーダーズ研修会が行われました。

浜本先生による救急蘇生講習では、AEDの使用方法や心肺蘇生法を指導していただきました。緊急時には一分一秒を争う迅速な行動が求められます。この講習内容を何度も繰り返し復習し、実際の行動を体で覚えこませなければ咄嗟のときに動くことができないと感じました。また緊急時には自分が動くだけでなく、周囲の人間を的確な指示で動かすリーダーとしての行動の重要性も感じました。

グループ討議では各部活の問題点や改善点について討論しました。普段交流のなかった他部活との討議は非常に興味深い情報が多く得られました。今年はその話し合いの中から出た対策案のひとつが実際の課外活動で採用されるなど有意義な討議となりました。

茶野准教授の講義では、医師、医学生として周囲から受ける信頼やその責任を、常に考えながら行動をすることの重要性から、医学部における課外活動の意義、

リーダーズ研修会の在り方に至るまで様々なテーマで討論し合いながらそれぞれの理解を深めました。

今回のリーダーズ研修では、各部活の代表者がリーダーとしての自覚や責任を高めることができ、非常に有意義なものとなりました。今後の部活動の場にこの経験を還元していきたいと思います。



医師・保健師・助産師・看護師 国家試験の結果

第110回医師、第102回保健師、第99回助産師、第105回看護師の各国家試験の合格発表が平成28年3月に行われ、滋賀医科大学の合格状況は次のとおりでした。

保健師・助産師・看護師の合格率は100%でした。なお、いずれの合格率も全国平均を上回る結果となりました。

第110回 医師国家試験

平成28年2月6日(土)・7日(日)・8日(月)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	114名	107名	93.9%	全国 受験者 9,434名 合格者 8,630名 合格率 91.5%
既卒者	9名	7名	77.8%	
計	123名	114名	92.7%	

参考 前回 第109回医師国家試験の結果

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	103名	96名	93.2%	全国 受験者 9,057名 合格者 8,258名 合格率 91.2%
既卒者	8名	7名	87.5%	
計	111名	103名	92.8%	

第102回 保健師国家試験

平成28年2月16日(火)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	30名	30名	100.0%	合格率(全国) 89.8%
既卒者	0名	0名	—	
計	30名	30名	100.0%	

参考 前回 第101回 保健師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	70名	70名	100.0%	合格率(全国) 99.4%
既卒者	1名	1名	100.0%	
計	71名	71名	100.0%	

第99回 助産師国家試験

平成28年2月17日(水)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	7名	7名	100.0%	合格率(全国) 99.8%
既卒者	0名	0名	—	
計	7名	7名	100.0%	

参考 前回 第98回 助産師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	8名	8名	100.0%	合格率(全国) 99.9%
既卒者	0名	0名	—	
計	8名	8名	100.0%	

第105回 看護師国家試験

平成28年2月14日(日)実施

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	57名	57名	100.0%	合格率(全国) 89.4%
既卒者	0名	0名	—	
計	57名	57名	100.0%	

参考 前回 第104回 看護師国家試験

	受験者	合格者	合格率	備考
新卒者	60名	60名	100.0%	合格率(全国) 90.0%
既卒者	1名	1名	100.0%	
計	61名	61名	100.0%	

図書館からのお知らせ
News from the library



新入生歓迎ミニ展示

本学教職員が薦める この本 2016



新入生、新規採用職員の皆さま、滋賀医大へようこそ！

附属図書館では4月4日から5月20日の間、本学教職員のお薦め本を紹介する展示企画を行いました。

ここでは、その時の推薦コメントを紹介いたします。

どれも気になる本ばかりです！

推薦者 学長 塩田 浩平 先生



目の見えない人は世界をどう見ているのか / 伊藤 亜紗 著

目の見えない視覚障害者は、健常者から視覚を引き算したものだろうか、という問題意識から本書は出発する。視覚障害の人は健常者とは全く異なる感覚で世界を認識し、それを「見て」いる、ということがわかる、文字通り目から鱗が落ちる1冊。

369
275
Ito

失敗の本質：日本軍の組織論的研究 / 戸部 良一ほか 著

大東亜戦争における日本軍の敗因を組織論の立場から実証的に研究したロングセラーで、ミッドウェー戦やガダルカナル戦などがケーススタディとして分析されている。合理的戦略の欠如、セクショナリズム、属人的情緒主義など、驚くべき日本軍の欠点が明らかにされる。現代に通じる組織論としても示唆に富む。

391
3
Shi

推薦者 副学長（精神医学講座） 山田 尚登 先生



フランドルの冬 / 加賀 乙彦 著

私が高校時代に読み、精神科医を志すきっかけになった本の一つである。加賀乙彦という精神科医が書いた小説である。あれから40年以上の時を超えても、尚精神病理学の一側面を鮮やかに描いて見せてくれる名著である。読み終わった後、誰かにこの話がしたくなると思う。

978
6
Shi

推薦者 神経難病研究センター 西村 正樹 先生



風の歌を聴け / 村上 春樹 著

今やノーベル賞有力候補として騒がれ、出せばミリオンセラーという作家をどうしてわざわざ推薦するのか。しかし、私にとっての『風の歌を聴け』は、教養生の頃、黴臭い時計台下の京大生協で、偶々手に取った名もなき作家のデビュー作なのです。村上春樹は、なぜかその文体に惹かれ、今に到るまでリアルタイムに読んできた、数少ない作家の一人です。深く考えることもなく、ただ面白く読んできたのですが、自分のなかに何らかの陰影を落としたことは間違いなく、惹かれた理由も今では少し理解できます。この本に限った推薦ではないのですが、各自がこういう作家をもつことも読書の醍醐味でしょう。

918
68
Mur

悼詞 / 鶴見 俊輔 著

「人としての生き様」なんて高尚なことを考えてみることはありますか？私はほとんどなかった。若い頃に少しは考えれば良かった。昨年この世を去った鶴見俊輔が独自の視点から、交わりのあった人々の人生を切り取る。削り込まれた文章に感服させられるとともに、我を振り返らずにはおかせない一冊です。日本人にとっての「生き様」の一つの完成像が「幕末期の武士」であり、それは損なわれつつあると危惧したのは司馬遼太郎ですが、『竜馬がゆく』などで司馬の声に耳を傾けるのもいいでしょう。これらは、若かりし日への自省の念を込めて推薦します。

914
6
Tsu

生命とは何か：複雑系生命科学へ / 金子 邦彦 著

少しは企画の意図も汲まなくては、ということでもう一冊。この本の読後には少し意識の幅を広げられるような錯覚がありましたが、うーん理解できなかったなあというのが実感です。みなさんのフレッシュな頭で理解できたら、かみ砕いて教えて下さい。Green B著『エレガントな宇宙 — 超ひも理論がすべてを解明する』も同様です。誰かに解説してほしいので推薦しておきます。よろしく。研究テーマのど真ん中は、Tanzi RE、Parson AB著『痴呆の謎を解く—アルツハイマー病遺伝子の発見』です。業界の裏話を拾った著作ですが、正直なところ奥行きを求める本ではありません。

QH
307.2
Kan

推薦者 放射線医学講座 村田 喜代史 先生



医と人間 / 井村 裕夫 著

この本は、2015年に開催された第29回日本医学会総会を記念して、会頭の井村裕夫先生が編集されたものです。今、医学・医療は、目覚ましい技術進歩の一方で、高齢化や医療費の高騰によって、将来の医療制度をどのようにしていくのか、皆で考えなければならない大きな転換期に入っています。また、医療の現場においては、高度な医療技術が前面に出ることによって、医療人としての暖かい手がわかりづらくなっている現実があります。この本は、前半で、現在の医学の最前線のいくつかのトピックスを取り上げて、将来への夢を提供しているとともに、後半で、医療人としての心をもう一度考えさせてくれるテーマを取り上げています。これから、医学の道に進まれる方に、ぜひ読んでいただきたい1冊です。

W
21
Ito

推薦者 生命科学講座（化学） 古荘 義雄 先生



「新しいことを学びたいければ、器を空にしろ！」とは、香港でプロジェクトA（A計画）を世界的な成功に導いた成龍氏の言葉です。本学へ入学したばかりの皆さんは、今まさに、自分の頭の中を真っ白にして新しいことに挑戦していることでしょうか。今回は作文関係の本を2冊紹介させていただきます。

📖 コピペと言われないレポートの書き方教室： 3つのステップ：コピペから正しい引用へ / 山口 裕之 著

エメット・ブラウン博士の名言、「If you put your mind to it, you can accomplish anything. (為せば成る)」に代表されるように、何事に取り組む場合でも、本人の前向きな姿勢といった精神的な要素が重要です。

しかしながら、レポートや学术论文の作成ということになると、それだけではうまく行きません。それなりの「作法」を守る必要があるのです。本書のタイトルはちょっと刺激的ですが、中身は極めてオーソドックスで、必要最低限のことが網羅されています。入門編としてオススメの1冊です。

816

5

Yam

📖 わかりやすく〈伝える〉技術 / 池上 彰 著

「なーんだ、そうだったのか」で有名な著者による1冊。専門的な内容を一般人に伝えるための数々のノウハウが書かれています。

361

45

Ike

推薦者 臨床看護学講座（成人） 森本 明子 先生



📖 病を引き受けられない人々のケア：聴く力続ける力待つ力 / 石井 均 著

慢性疾患と生きる人の心と行動を理解する手助けとなる全十話の談話集です。「何が楽しみで生きていくのかがわからないんだ」（第一話）、「痛いだけ治してくれればいい。糖尿病は放っといてくれ！」（第二話）、「先生はそう言うけど、私、調子がいいんだ」（第三話）、「優しそう顔をしていながら、治せないじゃないかおまえは！」（第四話）、「注射が怖くて窓から飛び降りる夢を見た」（第五話）、「しょうがないやつだけど、一緒にやっていくか」（第六話）、「退院してしまったら、本当にできるかどうかとても自信がない」（第七話）、「インスリンなんか打ったら、本当の糖尿病になってしまう！」（第八話）、「今の楽しみか、将来の健康か」（第九話）、「先生、きょう、その薬は結構です」（第十話）といった患者さんの言葉の背景にある思いを理解し、支援する手助けとなる一冊です。

WK

810

Ish

推薦者 臨床教育講座 伊藤 俊之 先生



■ 平静の心：オスラー博士講演集 / 日野原 重明、仁木 久恵 訳

聖路加国際病院で内科レジデント1年目として臨床研修を開始した頃に日野原重明先生からこの本をご紹介頂いたことを記憶している。本書は、臨床医としてはもちろん、研究者や教育者としても高く評価されているウィリアム・オスラー博士 (William Osler, 1849~1919) の講演集で、オスラー博士が生涯において行われた数多くの講演の中から訳者が選んだ18編に対して詳細な解説がなされている。やや難解な部分もあるが、時を置いて何度か読み重ねているうちに、改めて深い意味が込められていることに気が付き、「医師としてのあるべき姿」について“何か”を感じ取ることが出来るように思う。

W
9
OsI

■ 白衣のポケットの中：医師のプロフェッショナリズムを考える / 宮崎 仁、尾藤 誠司、大生 定義 編集

“プロフェッショナリズム”という言葉を見聞きするようになってから、もうかれこれ10年は経つだろう。“医師のプロフェッショナリズム”とは何なのか、漠然と「医師としてのあるべき姿」を指すのだろうと思いつつも、未だに“プロフェッショナリズム”が適切な日本語で表現されていない事情もあるせいか、個人的にはモヤモヤ感をまだ完全に拭い去れてはいない。本書では日常診療の場で身近に起こりうる様々な事例が多数示され、それらに対する具体的解決法を考えること自体が“医師のプロフェッショナリズム”について洞察することとなり、読み進めてゆくうちにモヤモヤ感が自然と晴れてゆくような印象を受ける不思議な本だ。

W
62
Hak

■ ドクターズルール425：医師の心得集 / 福井 次矢 訳

「医師としてのあるべき姿」とは何だろう？この問いは医師にとって永遠のテーマなのかもしれない。「医師としてのあるべき姿」の文脈でもう一冊。本書の序文には“医療行為の暗黙の規範を明文化した規則集”とある。出典は明確にされていないが、ヒポクラテスの時代から現代に至るまでの規則あるいは格言が、何の脈絡もないものの、英語の原文と共にごく端的に示されている。じっくりと読み込むのではなくいつもパラパラと目を通すだけなのだが、本書を読むたびに毎回数多くの新たな気づきが得られるように感じている。「医師としてのあるべき姿」とは何か？を追求するための方略の1つとして、このようなアプローチがあっても良いのかもしれない。

W
62
Doc

展示した図書は、現在は書架に戻されています。
各コメントの右側にある請求記号をもとに、
是非探してお手に取ってみてください！

918
68
Mur



ご協力いただいた先生方、まことにありがとうございました！



iKODEプログラムの紹介

～医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナーを目指す～

iKODE (イコーデと読みます) プログラムとは、平成26年度に採択された文部科学省の人材育成プログラムです。i = 医、KO = 工、DE = デザインの頭文字を取って iKODE と名付けました。アントレプレナーは、一般的には起業家 (ベンチャー企業を興す人) を意味しますが、本学では、「研究成果を実用化するための社会貢献活動を牽引できる人材」という広義の意味で取り組んでいます。今回、その内容を紹介していきたいと思います。

iKODEプログラムとは？

育成する人材像

「医・工・デザイン連携グローバルアントレプレナー」を育成します。従来から医学と工学の連携で医療機器開発を進めるといふ、いわゆる医工連携が行われてきましたが、iKODEプログラムでは「デザイン思考」と言われるイノベーション発想方法の手法を取り入れて、自分や他者の研究成果を実用化するために必要な素養 (医学および工学の専門知識、薬事規制知識等) を身に付け、具体的にプロトタイピング (試作品作製) ができる人材を育成します。

目指すイノベーション・エコシステム

上記のような人材育成を進めることによって、「医療機器産業のイノベーション・エコシステム」を構築します。イノベーション・エコシステムとは、ある特定の地域や分野で生態系のように自己増殖的にイノベーションが生まれるような仕組みで、iKODEプログラムでトレーニングを受けた人材が医療機器開発に加わることによって、次から次へと新しい価値を提供する製品開発が進むことを意味しています。このためには、人材育成だけでなく、大学間での共同研究の仕組みや地域企業や行政機関との連携がスムーズに出来るようなインフラストラクチャーの整備が必要です。すなわち、産学官連携活動が日常的に進み、そこから新しい価値を提供する製品が生み出されるような仕組みづくりがゴールとなります。

人材育成プログラムの内容

iKODEプログラムは大きく分けて、講義や講演などの「座学」、デザイン思考やシステム思考の手法を習得する「ワークショップ」、3Dプリンター等による「プロトタイピング」(試作品作製演習)、海外の優れたプログラムに参加し、ベンチャー企業視察などを行う「海外研修」などです。

(詳しくは、iKODEプログラムのWebサイト：<http://ikode-sums.com/>を参照してください。)

座学は、アントレプレナーシップや技術経営を専門とする講師、医工連携を実践している講師、医師でベンチャー企業を経営している経営者などを国内外から招聘し、iKODEプログラム受講生のみならず、学内の全教職員への公開としており、産学官連携活動を通じて社会貢献への意識の高揚をはかっています。一部は、学部1学年の必須科目である「医学特論」(後期)に組み入れています。

ワークショップでは、イノベーション発想方法として知られるようになってきたデザイン思考やシステム思考を取り入れて、専門家が気付かないような課題に気づき、抽出する手法を習得します。

プロトタイピングでは、3Dプリンターを用いたモノづくりを体験します。自分自身で考える必要なモノ、あったらいいモノを自由に発想し、実際にカタチにします。これまでのプログラムの中で最も人気のある実習で、受講生は本当に楽しそうです。

海外研修は、昨年度末には後で紹介しますように、カナダのオタワ大学で行いました。オタワ大学では、もちろん英語でのセミナーや実習ですが、本格的なアントレプレナーシップ教育やプロトタイピングの実習を受けることができ、受講者には大変好評でした。今年度は、夏期にベンチャーのメッカであるシリコンバレー (米国カリフォルニア州) に行く予定です。(残念ながら、応募は締め切りしました。) また、昨年度に引き続き、年度末近くにオタワ大学の研修も予定しています。

iKODEプログラムに興味を持った学生さんをお待ちしています。いつでもお問い合わせください。

(問合先：iKODEプログラム事務局 - 内線2082、E-mail：ikode@belle.shiga-med.ac.jp)

オタワ大学(カナダ)における研修

昨年度、実施しましたオタワ大学での海外研修を紹介します。



1. 出張先

オタワ大学工学部 (MakerSpace)、心臓研究センター、医学部研究室

2. 期間

2016年3月7日(月)～11日(金)(5日間)

3. 目的

(1) iKODEプログラムの2年目として、受講生を海外研修に派遣し、グローバルかつ先端的なアントレプレナーシップ教育やプロトタイピングを体験すること。

(2) オタワ大学医学部研究室や心臓研究センターを訪問し、先端的な医療現場の視察と医療機器開発の現状を知ること。

4. 内容

① 3Dプリンターワークショップ

簡便な3Dプリンター用ソフトウェアを使って、自由な発想で自分たちが考えるモノ、あったらいいモノを作ってみる実習でした。MakerSpaceと言われる部屋には十数台の3Dプリンターが常設されており、研修期間中いつでもモノを作ることが許されていました。



② レーザーカッター使用演習

木材や段ボール紙などに、コンピューター制御でレーザーの強度や深度を変えることにより、様々な濃淡の模様を描いたり、自由な形に切り取ったりすることができました。①の3Dプリンターとの組合せで、種々の試作品作成ができるようになっていました。

③ アントレプレナーシップ・ワークショップ

技術シーズや顧客ニーズが明確なテーマからのビジネスモデル立案のためのアプローチ方法、特定のシーズやニーズが不明確であるが、社会的な重要度・市場が大きいと考えられる領域でのアプローチ方法を学びました。



① Arduino 基本操作ワークショップ

Arduinoというマイクロコントローラー(ミニ・コンピューター)を用いた電子回路の構築などをワークショップ形式で学びました。左図のようにキット化されているので初心者にも分かりやすく、例えば単純にライトを点けたり消したりする回路を作る体験をしました。

② Arduino プログラミング

同じArduinoを用いて、更に高度なプログラミングを学びました。MIT(マサチューセッツ工科大学)が開放しているプログラム作製ソフトを用いて、センサーとライトが連動するようなプログラムを組んだりする演習でした。

③ Shopify 社訪問

カナダ・オタワで最も成功していると言われているソフトウェア(IT)ベンチャー企業を訪問しました。カナダの”Google”と言われており、先端のIT企業の職場環境を感じる事ができました。

① 心臓研究センター訪問

先端的人工心臓を開発した実績をもとに、世界のトップクラスの研究者が在中し、開発をサポートするMDCC(政府機関)が置かれていました。その中心的な存在であるDr. Tofy Mussivandの案内でセンター内(カテーテル治療施設を含む)を訪問しました。

② オタワ大学医学部研究室訪問

滋賀医科大学にも来られたProf. Stainesの案内で、CMM(Cellular and Molecular Medicine)の研究室などを訪問しました。解剖学や生理学の研究室では先端的な装置や研究内容を紹介していただきました。



～海外研修を終えて～



DUONG THANH TU (病理学講座)

このプログラムを計画された、遠山先生、松浦先生、谷藤先生に本当に感謝しています。

iKODE プログラムの海外研修に参加できて、本当に幸せです。オタワ大学での研修はどれも楽しいものでした。私が一番気に入ったのはレーザーカッターでした。それには次のような理由があります。

まず、このセクションはとても興奮しました。レーザーカッターを使って、ネームカードやロゴのように大変単純なものから、肖像画や風景画のようにとても複雑なものまで作ることができるのです。この機械に使うことができる素材は色んなものがあり、紙、竹、厚紙、木、プラスチックなど、様々なものを使用できます。それに、この機械の使い方はそれほど難しくないのです。あなたが自分で作った画像や、自分のパソコン、カメラ、インターネットから取ったファイルをレーザーカッターに使用することができます。

次に、ジャスティン先生がとてもすばらしい先生でした。彼女は意欲旺盛で、とても明確に、かつ魅力的に教えてくれました。

そして、この部門での研修は将来私の財産となると思います。というのも、私の研究はレーザービームに関係しているからです。

レーザーで切断するセクションでは、レーザーカッターの機械に触れました。いろんなことに利用できる機械で、切ったり、木やプラスチック、さらには金属に穴を空けたりすることができます。これらの装置は実用的で、効率がよく、そして簡単に自動で運転されます。安全装置については、ろ過装置や換気装置が必要です。というのも、個人被ばくを除去し、カッティングの際に生じる副産物を安全に排出することができるからです。また、この機械は切断中に大変熱くなるので、火災防止装置も必要です。

最後になりますが、Inkscape ソフトを使って、レーザーカッター画像を作ることができ、ジャスティン先生には本当に感謝しています。ラスターやベクターでの切断の両方を経験することができました。ラスターのカッティングは彫るために使う一方、ベクターは完全に切断するために使います。



レーザーカッターで作成した画像。花はラスターレーザーで彫られ、文字はベクターで彫られました。



作業終了後、ジャスティン先生と。

JCHO
滋賀病院だより
News from JCHO
Shiga Hospital



JCHO 滋賀病院における 都市近郊型地域医療



独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）滋賀病院 院長

来見 良誠

（滋賀医科大学医学部医学科 1 期生・昭和56年卒）

JCHO 滋賀病院の紹介

はじめに独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）について説明いたします。平成26年4月に、社会保険病院（47病院）、厚生年金病院（7病院）、船員保険病院（3病院）の統合により独立行政法人化され、全国に病院（57）、健康管理センター（57）、介護老人保健施設（26）を有する公的医療施設となりました。近畿には滋賀病院（旧・社会保険滋賀病院）、京都鞍馬口医療センター（旧・社会保険京都病院）、大阪病院（旧・大阪厚生年金病院）・大阪みなと中央病院（旧・大阪船員保険病院）・星ヶ丘医療センター（旧・星ヶ丘厚生年金病院）、大和郡山病院（旧・奈良社会保険病院）、神戸中央病院（旧・健康保険神戸中央病院）の7医療機関があり、共通の理念のもとに連携を取りながら運営されています。JCHO 滋賀病院は、一般急性期診療を主体とする325床の病院で、100床の療養施設と、年間約40,000件の健康診断を実施する健康管理センターを備えた医療施設で、滋賀医科大学にも近い公的関連施設となりました。

地域医療教育研究拠点

平成27年9月29日、滋賀医科大学とJCHO本部は地域医療教育研究拠点についての協定を締結し、その結果JCHO 滋賀病院は滋賀医科大学の教育研究活動拠点となり、都市近郊型の地域医療をめざすことになりました。

大学病院が県全体の急性期病院として機能しているために、滋賀医科大学が地域住民に提供できる医療資源は限られてきます。地域医療の部分を補完できる教育研修病院として、JCHO 滋賀病院が地域医療教育研究の活動拠点となり、大学と連携して滋賀医科大学の地域医療の教育と研究を実践推進する医療機関になりました。

JCHO 滋賀病院は、大学と同じ大津医療圏にあり指導医の人的交流も容易であるため、平成28年4月より、第5学年の学生実習（2週間ずつ22グループ：計106名）を開始いたしました。また、教育研究拠点准教授の梅



田朋子先生が在籍出向の形でJCHO 滋賀病院に乳腺外科部長として着任し、地域医療の教育研究を推進することになりました。今後更に地域医療教育研究拠点としての機能を整備していく予定です。

都市近郊型地域医療

滋賀県には人口約141万人に対して7つの2次保健医療圏（57病院）があり、そのうち人口約34万人の大津保健医療圏には15病院があり診療を行っています。急性期を主体とする病院、回復期を主体とする病院、精神科の専門病院などがあり、広く市民の健康維持増進に貢献しています。当院ではこれまでは、急性期のみを主体として運営してきましたが、昨年より社会の変化に対応して総合医の育成をミッションの一つと位置づけ、教育研修システムを構築して来ましたが、すなわち人口減少を伴う高齢化ではない都市近郊型の高齢化地域においては、急性期の専門病院としての機能を低下させることなく、慢性期にも対応できる技能を有した医師の育成が急務であると判断し、各診療科の専門性を尊重しかつ総合化できる仕組みを構築しました。大学病院や近隣の急性期病院の機能を補完する総合診療に対応できる急性期病院として都市近郊型地域医療に貢献したいと考えています。総合診療の技術を身に付けた様々な分野の専門医を育成できる施設にしていきたいと思っております。

JCHO 滋賀病院での臨床実習の実際

独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）滋賀病院
総合診療科部長・（兼）臨床研修部長

中島 滋美

（滋賀医科大学医学部医学科2期生・昭和57年卒）

JCHO滋賀病院では、現在滋賀医大の第5学年（全員）と第6学年（学外アドバンス希望者）の臨床実習を担当しています。実習は毎朝8時20分からの合同朝カンファレンスに参加することから始まります。このカンファレンスは、前日から当日朝までの入院症例を内科医全員と外科系有志の医師で見て、診断や治療について検討している会です。カンファレンス後は、学生は1人ずつ別々に実習を受けることになっています。大学ではグループ実習をしていると聞いていますが、JCHO滋賀病院では個別実習なので、1人当たりの自身の濃い実習になっています。

第5学年（学内型）臨床実習

第5学年がローテーションする診療科には12のコースがあり、A（外科・消化器外科・乳腺外科）、B（呼吸器科・小児科）、C（整形外科）、D（耳鼻咽喉科・眼科・口腔外科）、E（総合内科）、F（消化器内科）、G（循環器内科・救急科）、H（泌尿器科）、I（腎臓内科・代謝内分泌内科）、J（神経内科・老健施設）、K（健康管理センター・病院管理）、L（麻酔科）と分けています。一般病院の実習ですので、大学病院とは少し異なる患者層であったり、医療環境であったりします。また、老健施設や健康管理センターなど、大学にない部門の実習もあるのが特徴です。病院管理に関しては、病院の幹部が病院の機能や運営の仕方など将来医療施設の運営や政策医療に役立つような内容を伝授します。これまでに既に5グループ（25名）が当院での実習を経験し、満足度は高いと評価されています。このように、第5学年は12の領域のうち2週間で10領域の実習を効率よく幅広く受けることが可能です。

第6学年（学外アドバンス）臨床実習

第6学年は個別に1つの科で3週間実習をします。期間が長いので患者さんとの接触が多く、診察も深くなり、検査や治療に参加したり、患者さんとしゃべったり、医師を手伝ったりという実習になっています。例えば、私の担当の総合内科外来では、診察以外にイ

ンフルエンザ検査、便培養、ノロウイルス検査の検体採取もしてもらいます。直腸指診は、3週間で10例以上経験します。心雑音や不整脈などは、1日の実習では遭遇しないこともあります。3週間いると必ず数例は出会いますので経験が豊富になります。消化管出血、甲状腺疾患、パーキンソン症候群など内科の代表的な疾患も1日の実習では遭遇しないことがありますが、3週間いるとほとんどの代表的疾患に出会います。問診は、指導医の指導の後、1人でしてもらっています。病棟回診は、3日目ぐらいからは1人で行ってもらっています。つまり、1人で患者と接し、コミュニケーションを取る実習をしてもらっています。

さて、実習で実際に症例を経験すると自分の知識の不足や不正確さに気づき、実習後はその点を勉強したくなるでしょう。私の科で実習した学生さんには、実習後に自習の時間を作るようにしています。そして、勉強した内容を翌日ミニレポートにして提出してもらっています。これは、実際の症例を経験してからの勉強はよく頭に入り、学んだ知識は生涯にわたって役に立つであろうという信念があるからです。

JCHO滋賀病院ですでに実習を受けられた学生さんは、お疲れ様でした。わからないことがありましたら、いつでも指導医に訊きに来てください。また、ご意見がありましたら、いつでも言ってください。大学病院の実習では経験できない部分を補完できる教育施設として更に整備したいと思っています。これからJCHO滋賀病院に実習に来られる学生さんは、ぜひ楽しみにしててください。お待ちしております。



インフォメーション

Information

平成27年度 卒業式

平成27年度卒業式は、3月10日(木)午前10時から本学体育館において挙行され、学長から次のとおり告辞がありました。

告 辞

学 長 塩田浩平

本日ここに、ご来賓各位並びに本学教職員のご臨席を賜り、平成27年度滋賀医科大学卒業式を挙行できますことは、本学にとって大きな喜びであります。

医学科を卒業される114名、看護学科を卒業される65名の皆さん、本日のご卒業誠におめでとうございます。また、これまで学生の皆さんを支え励ましてこられたご家族と関係の皆様方にも、心よりお慶び申し上げます。

卒業生の皆さんは今、これまでの4年間または6年間の学生生活の達成感を感じるとともに、これから医療や看護の現場で始まる新しい生活への期待と緊張感に満たされていることと思います。皆さんはこれから医療、看護、保健など、臨床の第一線で働くことになります。病む人を助け病気を治療するために、あるいは人々の健康を維持増進するために、皆さんがこれまで大学で学んできた成果を活かして存分に力を発揮し、活躍してください。

皆さんは間もなく医師や看護師の国家資格を得ますが、これは決して皆さんが一人前の医療者であることを保証するものではありません。これから数年間にわたる研修や実地修練を受け、その中で実際に役立つ知識や技術を磨いて、ようやく独り立ちできる医療人となるのです。その意味で、皆さんの人生はいよいよこれから始まるのです。米国では卒業のことを一般にcommencementといいます。Steve Jobsが"Stay hungry, stay foolish"という有名な言葉を述べたのが2005年スタンフォード大学卒業式でのCommencement Speechでした。Commenceという英語に「終わる」という意味はなく、逆にこれは「始める」「始まる」ということを意味する言葉なのです。すなわち、学校の卒業は「新たな旅立ち」であることをこの言葉が表しています。皆さんの前には洋々たる未来と広い世界が待ち受けています。常にたゆまぬ努力で自らを高め、勇気を



持って道を切り拓いて行ってください。

医療や看護を取り巻く環境は、引き続き大きく変化して行くことが予想されます。医学科の卒業生のうち、40名の方が今春から滋賀医科大学附属病院で初期臨床研修を開始します。また、他の医療機関で初期臨床研修を受け、その後母校に戻る方も少なくないと思います。医師の世界では、新専門医制度が始まることになり、その制度設計が進んでいます。これは、日本専門医機構が行う新しい専門医制度で、現在の予定では1年後に新制度での専攻医の研修が始まり、2020年に新制度での第1回専門医試験が実施されることになっています。指針では、新専門医は「それぞれの診療領域における適切な教育を受け、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と規定されています。すなわち、個々の医師は、認定された施設または施設群が策定する専門研修プログラムに沿った研修を受け、専門医機構の試験に合格することが専門医になるために必要になります。医師となる多くの皆さんは専門医を指向されると思いますが、滋賀県においては滋賀医科大学が中心となって専門研修プログラムを策定し実施することになります。我々は、卒業生である皆さんの医師としてのキャリアパスを生涯にわたって支援します。これからの人生においては、クラスメートとの

ネットワークを大切にすることは勿論、大学ならびに同窓会である「湖医会」と連絡を保ち、必要なときには是非相談していただきたいと思います。

一方、看護や保健の分野においても、これから様々な改革が進み、看護師や保健師の活躍の場が広がっていきます。その一つが看護師の「特定行為」であります。これは、「実践的な理解力、思考力及び判断力と高度かつ専門的な知識及び技能」が必要とされる38の医療行為について、資格を持つ看護師が医師の指示を待たずに行うことができる、とするものです。本学は国立大学では初めて「特定行為指定研修機関」としての指定を受け、看護師特定行為の研修コースを本年6月に開講する運びになっています。

また、高齢者の増加と医療機関の機能分化の方向を受け、在宅看護が今後重要性を増してきますが、本学では看護学科に「訪問看護師コース」を新たに設け、27年度から学生を受け入れています。これは、看護学科と附属病院看護部の協働による卒前卒後の一貫した教育プログラムで、全国の国立大学で初の特色ある取り組みです。

このように、医師・看護師等の役割が今後ますます広く深くなっていきます。皆さんは、常に自己研鑽を続け、指導的な医療人としてそれぞれの立場で活躍してください。

昨年のノーベル生理学・医学賞を受賞された大村智博士のことは、皆さんの記憶に新しいことと思います。大村博士は、自然界に存在する有用な有機化合物を探索するという根気のいる研究を永年にわたって続け、480種を超える新規化合物を発見し、それらの中から新しい医薬品を作って、それまで治療法がなかった重症感染症の治療や予防に大きく貢献されました。中でも、抗寄生虫薬イベルメクチンは、熱帯地方の風土病で多くの失明者を出してきたオンコセルカ症（河川盲目症）やフィラリア症に対して画期的な効果を示し、中南米・アフリカにおいて年間数億人の人々を病魔から解放し、病気の撲滅に貢献しました。大村先生は、こうした素晴らしい医学的貢献に加えて、開発した薬で得た利益を研究所や美術館、学校などの運営に投じるなど様々な社会貢献もしておられます。大村先生は、自らの研究者人生からにじみ出る数々の名言を述べておられますが、いずれも大変示唆に富むものです。例えば、自らの研究者としての信念として、「祖母から『人のためになることをしなさい』と言われ続け、分かれ道に立った時は、それを基準に考えてきた」、また「私は人まねはしない。人のまねをするとそこで終わり。それを越えることは絶対ありえない。」等の言葉があります。そして若者に対しては、「この道を行ったら

大変だと分かっていたら、そこに向かいなさい。そうすれば楽しい人生になる」と言っておられます。

皆さんは医学部へ進もうと決意したときに、将来病気で苦しむ人を助けたい、あるいは人類の健康のために貢献したいと考えたはずです。医療者あるいは医学・看護学の研究者としての道は決して容易なものではなく、厳しい自己管理と絶えざる努力が要求される職業ですが、それだけに医療に従事する者だけが感じることのできる喜びや達成感は大きなものがあります。皆さんがいつまでも初心を忘れることなく、それぞれの道で大きく飛躍されることを心から期待しています。

ご卒業まことにおめでとうございませう。

平成28年3月10日



平成27年度 医学部 卒業式

平成27年度卒業式が、3月10日（木）午前10時から本学体育館で挙行政され、医学科学生114名、看護学科学科生65名が卒業しました。式典では学位記の授与、学生表彰が行われ、卒業生はそれぞれの思いを胸に抱き、旅立っていきました。

医 学 科 卒 業 生



医学科卒業生 114名

看 護 学 科 卒 業 生



看護学科卒業生 65名

平成27年度 学位授与式

平成27年度学位授与式並びに各賞授与式が、3月10日(木)午後3時から管理棟3階の大会議室において挙行され、大学院博士(医学)18名、論文博士(医学)2名、大学院修士(看護学)12名に学位記が授与されました。

学位授与者



平成27年度 学位論文学長賞等授与式

平成27年度に学位記（博士）（修士）を授与された者の中から、特に優秀な学位論文を発表した2名に、3月10日（木）の学位授与式において馬場学長から表彰状と副賞が授与されました。

また、滋賀医科大学シンポジウムの各賞・ベストティーチャー賞・優秀研究者・Doctor of the Year, 2015の各賞の受賞者に表彰状と副賞が授与されました。



博士論文学長賞

受賞者名 田中裕紀

論文題目 1-Methylnicotinamide ameliorates lipotoxicity-induced oxidative stress and cell death in kidney proximal tubular cells
(1-メチルニコチンアミドは腎臓の近位尿細管細胞において脂肪毒性による酸化ストレスおよび細胞死を改善する)

修士論文学長賞

受賞者名 園田奈央

論文題目 インスリン療法中の糖尿病患者における軽症低血糖と重症低血糖との関連、及び軽症低血糖の要因

第32回滋賀医科大学シンポジウム各賞

若鮎賞	清田 弥寿成
奨励賞	五十嵐 知之
審査員特別賞	山田 篤史

ベストティーチャー賞

生命科学講座（生物学）教授	平田 多佳子
解剖学講座（神経形態学部門）准教授	相見 良成
小児科 講師（学内）	澤井 俊宏
臨床看護学講座（成人）講師	森本 明子

女性研究者賞

アジア疫学研究センター 特任准教授 門田 文

優秀研究者表彰

血液浄化部	田川 安都子
内科学講座	安田 真子

Doctor of the Year, 2015

医師臨床教育センター 嶋本 正範



名誉教授の称号授与

学校教育法第106条の規定により、滋賀医科大学名誉教授の称号が下記の先生に授与されました。

平成28年4月1日	元理事	藤山佳秀
平成28年4月1日	元教授	岡村富夫
平成28年4月1日	元教授	竹内義博
平成28年4月1日	元教授	森川茂廣

第39回解剖体納骨慰霊法要・納骨式

5月28日（土）午前10時30分から、比叡山延暦寺阿弥陀堂においてご遺族、ご来賓、しゃくなげ会会員および学生、教職員総勢約400名が参列し、第39回解剖体納骨慰霊法要が執り行われました。

法要の中で、塩田学長から、今回お祀りした43柱の御霊及びご遺族に対し、慰霊と感謝の意が述べられるとともに、解剖学実習は学生自らの目と手で人体の構造を詳細に観察し、人体の複雑さと精巧さを理解する非常に貴重な授業であり、また、倫理教育上も大きな意義を持ち、ご遺体に接して解剖させていただくことにより、全ての学生がご献体いただいた方々の尊い御遺志に対し深く感謝し、医療人として高い倫理観を備えた立派な医療人になる覚悟を新たにするための大切な授業であると述べられました。

続いて、学生代表の生野泰彬さんが、ご献体いただ

いた皆様は生涯に亘って私たちの師であり、解剖学実習を通じ医療人としての道を歩む責任の重さを感じ、故人のご遺志を胸に医療を通じて社会貢献をしていくことをご霊前に誓い、故人のご冥福をお祈りしました。

法要に引き続き、故人（献体者）に対する文部科学大臣の感謝状を学長からご遺族代表にお渡しし、併せて、学生の手によりご遺骨をお返ししました。

また、午後からは比叡山横川の大学霊安墓地において、ご遺族、ご来賓、学生等の参列の下に、納骨式が執り行われ、分骨いただいたご遺骨が納骨堂に安置されました。

当日は穏やかな気候のもと、たくさんのご遺族が大学の霊安墓地を訪れられ、鮮やかに咲いたしゃくなげの花を眺めながら、故人を偲んでおられました。



学生代表 生野泰彬さん 慰霊の詞



学長から文部科学大臣感謝状の贈呈



納骨式の様子

研究医コースのご案内

研究は案外身近で、おもしろい

ちょっとでも興味があれば、入門研究医コースに参加してみよう！

入門研究医コースは、基礎医学講座が研究活動の情報と場を提供して研究への興味を育てようとするもので、基本的に出入り自由です。

研究室の様々な活動に参加しながら、研究の基盤となる知識の習得や、研究の動向の理解に重点を置いた指導を受けることになります。

研究室を選ぶために必要な情報は、第1学年後期の必修授業（医学特論・医学・生命科学入門Ⅱ、第2学年以上も出席可）で得ることができます。複数の研究室をローテートすることも可能です。また、他大学の研究医コースの学生と交流できるリトリート（研修会）等の機会もありますので、漠然と研究に興味がある学生でも無理なく参加できます。

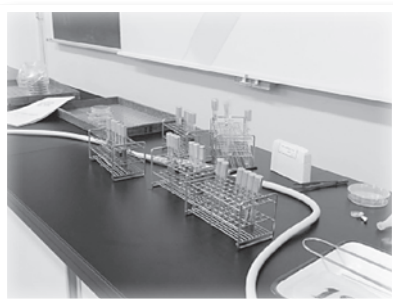
入門研究医コースの期間は、学会や研究会への参加経費の補助も受けることができます。



本格的に取り組むなら、登録研究医コースへ！

登録研究医コースへの登録は第1～5学年のいずれの時点でも可能で、毎年2～3月と7月に面接やレポート等による資格確認が行われます。

興味のある研究領域に応じて分子医科学・病理学・法医学・公衆衛生学の各専攻を選択し、自分の研究テーマをもって実際に研究活動に参加することになります。アドバイザーとして、指名された基礎医学講座の教授・准教授と、本事業専任の特任助教が研究について一から相談に乗ります。



それ以外の基礎医学講座の教員の実験指導も受けられますので、効率的に研究を進めることができます。希望に応じて、複数の講座をローテートしたり、連携大学である浜松医科大学や三重大学に出向いて、幅広い研究手法を身につけることも可能です。

登録研究医コースの期間は、学会や研究会への参加経費の補助も受けることができます。また、大学院の講義の聴講が一部可能になります。

詳しくは、研究医養成コースのホームページへ (<http://www.shiga-med.ac.jp/kenkyui/>)

2016年7月



「勢多だより」の由来

勢多は勢田、世多、瀬田とも書かれるが、古代、中世の文献では、勢多が多用されている。それに勢多は「勢（いきおい）が多い」という佳字名称である。従って、いきおいが多かれと願う本学関係者の思いにぴったりということで、瀬田とせずに、あえて勢多とした。

（題字は、故 脇坂行一初代学長による）



滋賀医科大学
SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

学章の説明

「さざ波の滋賀」のさざ波と「一隅を照らす」光の波動とを組み合わせたもの。

「中心に向かって、外からさざ波の波動-これは人々の医への期待である。外に向かって中心から一隅を照らす光の波動-これは人々の期待に返す答えである。」